

議事録

会議名	第2回 玉名市まちなか未来デザイン協議会
日時	令和7年1月10日 13:30～16:00
場所	玉名市民会館会議棟 第2会議室
出席者	別紙のとおり

<内容>

(司 会): 定刻になりましたので会議を始めさせていただきます。

本日は、委員の皆様におかれましては大変お忙しい中に第2回まちなかデザイン協議会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

本日司会進行を行います。都市整備課の審議員中川と申します。よろしくお願いいたします。

本日の会議時間につきましては、15時30分までの2時間程度を予定しております。

円滑な会議の運営に皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

では、本日の資料を確認させていただきます。

(事務局): 玉名市都市整備課の森田と申します。よろしくお願いいたします。

資料につきましては事前に郵送させていただいております。年末ぎりぎりでの発送になってしまい大変ご迷惑をおかけいたしました。

本日の資料については先にお送りしておりました次第と委員名簿に、若干修正がありましたので本日差し替えたものを、机の上に置いております。

資料といたしまして、資料1-1。資料1-2。それと参考資料です。

資料2。資料3、が本体の資料になります。

机上に、後ほど玉名市まちなか魅力向上委員会の方からデザイン協議会に提案書を提出いただきますので、その鑑文のコピーと、前回第1回目の議事録に若干修正がありましたので差し替えたものを置いております。

また、まちなか魅力向上委員会の方で作成されたニュースレターを配布しております。

過不足、また本日お持ちでない方いらっしゃいませんか。

(司 会): では、ただいまから、第2回玉名市まちなか未来デザイン協議会を開会いたします。

会議の開催にあたり、柴田会長より一言ごあいさつをいただきたいと思っております。柴田会長よろしくお願いいたします。

(柴田会長): 皆さんこんにちは。前回からちょっと間が空きましたけども、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。後ほど、説明があるかと思いますが、この間に非常に熱心に、しかも毎週、というか毎週以上のように集まっていた時期もあると伺っています。市民の方そして市役所の方も強力サポートしていただきながら、非常に充実した中身のものができ上がってきているかと思っております。

本日はそれについてご説明いただきながら、皆様のご意見もいただきたいと思いますので、積極的にご意見等いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(司 会):ありがとうございます。議題に入りますが、本日は、(1)の玉名市まちなか未来プロジェクトの進捗について、(2)まちなかの街路交通についての大きく2点の議題について、ご議論をお願いしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは早速、会次第3、議題に入りたいと思います。これより先は柴田会長に議長をお願いし、議事進行を進めていただきたいと思います。柴田会長よろしくお願いいたします。

(議 長):それでは早速、次第に従いまして議事を進めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。最初が、「玉名市まちなか未来プロジェクトの進捗について」でございます。まず事務局より資料等の説明よろしくお願いいたします。

(事務局):事務局中川でございます。まちなか魅力向上委員会からの提案につきましては、本日委員会から村田委員、崎山委員、福富委員の3名の方が、本デザイン協議会の委員としてご参画されております。魅力向上委員会は、本デザイン協議会と同じ「まちなかプラットフォーム」において、まちづくりの実行機関として位置付けています。構成員としましては、まちづくり活動を行っている方、もしくは行いたいと考えている方で、現在14名で構成されています。

昨年8月6日に第1回の委員会を開催されてから、令和5年度に庁内プロジェクトチームで策定した行政案をもとに、出前ワークショップや市民拡大ワークショップで意見聴取した結果を参考に検討され、かつ庁内プロジェクトチームとの合同会議等で合意形成を図り、全体では20回ほど会議が開催されています。

この度、グランドデザイン案へのコンセプトや事業イメージを取りまとめ、ご提案がございましたので、まず、まちなか魅力向上委員会を代表しまして、崎山委員より提案書を会長にご提出いただきたいと思います。崎山委員、前の方にお願います。

(崎山委員が柴田会長へ提案書を提出する)

(事務局):ありがとうございます。はい。

では引き続き、まちなか魅力向上委員会の3名から、提案書についてご説明をいただきたいと思ます。よろしくお願いいたします。

(村田委員):皆様こんにちは。玉名市まちなか魅力向上委員会の村田と申します。

本日は、玉名市まちなかグランドデザイン原案たたき台のご提案について、説明の時間をいただきまして、誠にありがとうございます。資料はA3の資料の1-1です。

3枚目にA3の資料が出てくると思うんですが、こちらでご説明させていただきます。

まず、提案の本題に入る前に、一般的には行政の中だけで策定されるグランドデザインを、あえて大変手間のかかる、市民との対話をしながら策定していく手法を選択された、玉名市に、心から感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

だからこそ、私たち市民も玉名の未来を考え、対話をしてきました。それによって本質的な思いが、願いが集まったものになったと今、考えています。

そして、本委員会はこのグランドデザインを実現していくために、実行部隊として、また官民ともに思

い込んでいる、「〇〇してくれない」や、「〇〇できない」という病から脱却を目指し、官民の関係性を再構築するために、潤滑的な存在になれるように去年8月から、5ヵ月間にわたって何回も会議をしまして、計20回ほど議論を行ってきました。

市民側の委員は、玉名市の地域活動を支えるキーマンも多くて、本業も含め多忙な方ばかりでしたが、市民が幸せを実感できるまちを作りたいという熱い思いを語ってくださいました。

また、委員の中には、少子高齢化、若い担い手不足など、右肩下がりの状況を実感して、これが最後のチャンスになるかもしれないという危機感を持って語る委員もいらっしゃいました。

市役所からは都市整備課以外の部署の方もご参加いただいて、お役所的ではない率直な意見を積極的に発言していただき、これによって信頼関係が築けたのではないかなと思っています。

そういうことで、本当の意味で、官民連携したランドデザインを作ることができたと自負しております。そしてもう1つ、ランドデザインの再考と合わせて、これをいかに絵に描いた餅に終わらせないために、各方面の認知度を上げ、多くの仲間を増やしていけるような仕掛けとして、社会実験も行いました。

詳細については、資料1-2の32ページに記載がありまして、後ほど事務局からアンケート結果も含め、ご説明されると思いますが、現状把握にもなり、今後の認知の広がりにも有意義なものになったと思っています。

前置きが長くなりましたが、ご提案の本題に入りたいと思います。

先ほど示したA3の1-1の資料の①から⑱まであるんですけども、本日はまず資料1ページの①から④の、ランドデザインのコンセプト部分と、最後の資料4ページの中ほどの提案⑱のランドデザイン実現に向けた官民の役割を中心に、ご説明させていただきます。その他のところに関しては、後でご参照いただければと思います。

まず資料1ページ目の提案①ですが、ランドデザインが、一般の市民には何のことかわからない言葉だったため、子供にとっても親しみやすく、わかりやすいものになるように、「まちなか未来図」という副題を添えるように考えました。

次に提案②についてですが、ランドデザインの本質的な思いが、最初に明確に伝わるように、玉名市まちなかの物語のプロローグとして、始めに言葉を添えるように提案をいたしました。

次に、提案③。キャッチフレーズですが、玉名市の各施策も、市民活動も、一番の目的は、幸せを実感することであると考えています。「幸せ実感」という言葉を、表現しました。これは世界的にも注目されているウェルビーイング(「心身ともに健康で社会的に満たされ、幸福な状態」を意味する概念)という言葉があるんですが、このウェルビーイングが高い状態を目指したいということを考えています。

そして先にも触れましたが、「〇〇してくれない」ではなく、官と民が連携して一緒に幸せが実感できるまちをつくっていくことで、玉名を大好きになり、さらに市民がまた次のまちを自分たちで作っていくという、持続的に続くまちづくりの好循環を生み出すことを期待して、「みんなでつくろう幸せ実感。大好き玉名」というキャッチフレーズを考えました。では続いてお願いします。

(福富委員):魅力向上委員会の福富と申します。その次の下の提案④をご説明させていただきます。

まず、コンセプトについてなんですけど、市民向けのワークショップ、委員会での対話や玉名市民憲章を踏まえまして再考をさせていただきました。

キャッチフレーズにも記載します通り、まちづくりは他人事ではなく、市民一人一人が自分事として主体的に関わっていく文化を根づかせていきたいという思いで、「私たちが一緒に」を真ん中に添えまし

て、「やろう」「かたろう」「ほっとしよう」「つながろう」「はぐくもう」の5つのコンセプトに、いずれも主体的に取り組む言葉に、置き換えをさせていただきました。

これら5つのコンセプトに込めた思いを簡単にご説明させていただきます。

「やろう」につきましては、たたき台の「ワクワクの創出」「やりがいの創出」を統合したものになります。市民のワクワクやチャレンジと一緒に作ろうという思いを込めております。

ワクワクを感じる地域を作っていくことは、若者が玉名に残り、帰ってくるためには、必ず必要な要素になるかと思えます。都市部にはない、玉名ならではのワクワクをつくっていきたくと考えております。

次に「かたろう」については、「かたる」という言葉には「話す」と「参加する」という2つの意味合いがあるかと思えます。たたき台の「かたる場の創出」と同様に、多世代が集まり、語り合う場所、お互いを認め合い、本音で対話できる場所を一緒につくろうという思いを込めております。

本委員会としましても、かたる市民を少しずつでも増やしながら取り組みを今後進めていきたくと思っております。

次に、「ほっとしよう」ですけれども、たたき台の「心地よさの創出」と同様に、わくわくできる場所だけでなく、玉名温泉も含め、ホッと一息つける場所、心地よく過ごせる場所があるなど、様々な場面をまちなかに作りたいという思いを込めております。人の幸せや価値をそれぞれなので、多様な選択肢を作り、認め合っていくことも必要と考えております。

次に「つながろう」については、先人が築き上げてきましたまちなかの歴史や文化を次世代に継承していきたくという思い。また、人と人が繋がることで地域を支えていきたくという思いを込めております。

そして最後に「はぐくもう」については、現状では身の回りにあるものが当たり前すぎて、「玉名は何もない」という方が多いのが現状なんですけれども、地域を知ることで「玉名が大好きだ」と思える人材を育てていくことが、まちを育てていくことにも繋がり、そのまちが次の人材を育てていく。このような好循環を作りたいという思いを込めております。この点については、地域に対する肯定感が低い状況にあるとも考えられますので、外部の方や、例えば世界中を見て回った経験のある方などから、玉名の魅力などをお話いただくような機会が、今後必要になるのかもしれない。

また東京など都会と比べて良いか悪いかではなく、「玉名は何々がすばらしい」と、自信を持って人に話せる人材をふやしていきたいと考えております。仕事も含めて県外へ行った方々が好きな玉名に帰ってこられるような環境づくり、こういったものも、今後必要になってくるかと思っております。

次に資料4ページにあります提案⑧の官民の役割についてなんですけれども、ランドデザインの策定過程や、本年度以降の実行過程自体も慎重な機会でもあって、官民の役割分担や関係性の再構築をする絶好のチャンスだと思っております。

人口減少の局面で、行政主導のまちづくりや、一部の利害関係者の利益になるまちづくりだけでなく、市民自身が学び、考え、自身の将来や地域の将来に責任を持つことが必要かと思えます。

行政と連携をしながら、社会実験なども行い、本当に必要なこと、本当に必要なものを、行政と話をしながら考えていくことが必要かと思っております。

委員会としましては、先ほどありました潤滑油的な立場で官民の対話の場所をつくる。また、いろいろ取り組んでいることをブラッシュアップ、磨き上げて、いろんなお話をしながらよりよくやっていく、そういうことを継続的に行いたいと思っております。

その動きと連動しながら、行政は昭和時代のハード整備ありきのまちづくりではなく、ソフト面、また

ハード面の相乗効果が最大限発揮され、市民の幸せを実現できるような都市基盤の整備や、公共用地の活用を今後いろんなところを進めることをお願いしたいと思っております。

そのためにも、実施する事業の検討過程、また、意思決定の過程を市民にもできるだけ公開し、広報活動にも積極的に取り組む必要があると思っております。

これからこれがまた、今回のパブリックコメント等もあると思いますが、そこも含め、行政のあるあるですけれども、「ホームページに記載しているので、これを見ておいてください」というような投げっ放しのようなことにならないように、我々委員会としてもフォローをしていきたいと考えております。

一見、時間がすごくかかって、非効率に見えるかもしれませんが、最初に村田委員がおっしゃった通り、やっぱりいろんな価値感があるかと思えますし、またその市民の意見が、今回この中に入れ込めるということは本当にありがたいなと思えます。特に多様な価値感をさらにもっともっと広げていけるように、こういう世の中だからこそ、それぞれ官や民それぞれが自身の役割を再確認して、自覚と責任を持ち、行動し、認め合うことが必要と思っております。それが本当の意味で玉名市の今後の魅力づくりに繋がるものと確信しております。それでは、代わらせていただきます。

(崎山委員): 魅力向上委員会の崎山です。これで最後になりますが、本提案を作成するまでに開催された委員会は、参加者それぞれの熱い思いを語り合える素晴らしい場となり、学識経験者の方が、こんな場は全国的にも珍しいと言ってくださるぐらい、私自身もすごくワクワクしながら、参加してきました。

参加者それぞれの意見を否定することもなく、お互いを認め合えたからこそ安心して、何でも話ができたのかと思います。

時には終了時刻をすぎるほど白熱した話し合いもしたこともありました。委員会での意見交換自体もグランドデザイン実行に向けての社会実験であったと感じています。

とはいえ、行政での勤務経験のある委員が、行政の方にとっては、自分たちの仕事も増えるし、ここまで対応したがないというぐらい、参加者が熱過ぎて1つにまとまるのか?という状況でもありましたが、都市整備課の皆様は、我々の本気の思いを受けとめ覚悟してくださり、また、日本工営都市空間株式会社様のサポートもあり、何とか提案がまとまり、今日の日を迎えることができました。この場をお借りして、改めて感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

これで玉名市まちなかグランドデザイン原案たたき台への提案についての説明を終わります。本日は提案の時間をいただき、誠にありがとうございました。

(議長): はいどうも、ありがとうございました。昨年度ですよ。

市職員の皆さんが作成されたたたき台に対して、検討をされて、こういった提案をしていただいたということになります。

それを踏まえて、その次の議論になりますが、資料としては、この「まちなか未来図」ができ上がっているとそういう形になっておりますので、今ご提案いただいたことについてプロセスも含め何かご質問等あればと思いますがいかがでしょうか。

(議長) じゃあ、ちょっと私から、せっかくご3人がいらっやいますので。今、最後崎山さんがご説明されましたけど、予定の時間を超えて、もう議論が白熱したこともあったということですが、なんて言いますか、多分、夏頃始まったときは、これは何なんだろうかと。どうなるんだろうかみたいなことも正直あったんじゃないかと思うんですけども。その辺りが、多分どこかで変わったというか、「こうすればいいのか」というようなことが見えたような時というのはあったんじゃないかと思うんですけども。何かその辺り。何かきっかけがあったのか、

徐々にみんなの気持ちが上がっていたのか、何かその辺り全体の雰囲気をちょっとご紹介いただければと思うんですけどいかがでしょうか。

(福富委員): 会議の1回目、文化センターで集まらせていただいたんですけども、やはり最初のスタートがいつもの民間と行政の話し合いみたいに始まったんですが、やっぱりそれだったらこれをやる意味が正直ないんじゃないかというのがありまして、ぜひぜひ皆さんと一緒に話をさせてくださいとご提案させていただきました。

結局、市役所の方々も、一市民であるというところをベースに、当然皆さん仕事、またはボランティアという形で来ているのですが、そこの垣根をなるべく取っ払って、言いたいことをいえるような会議体にしていきましょうというのが、一番の最初のスタートです。今までありがたかったと思ったのが、この感覚が、市役所の方の本気度がもうその時から伝わってきていたという感じです。ちょっと言い方が失礼なんですけれども私も10年近く、いろんなところと関わりを持たせていただいたんですけども、今回ちょっと本気度が違うなと思ったのが正直の印象です。

それから、傍聴にも今日いらっしゃっていますが、いろんな経験者の方々が常にリードしていただきながら、また日本工営都市空間の方が、うまくそれをまとめていただいて。本当に会議も、まさか週に2回3回4回、忙しいコアメンバーの方は今日この会議、明日はこの会議、そして明後日この会議ということで、ほぼ毎日のように出てらっしゃった、体を本当壊されないのかなと心配していました。特にやっぱり事務局の方、またいろんな方々が、適切な動きもしていただいたということが、やっぱり時間も忘れながら、しっかりやれた要因の1つなのかと思っております。

(崎山委員): 未経験者なんですけども、いろんな話を聞いていると、難しい、聞いたことない片仮名の言葉が満載で、正直はてなマークなところも多々あったんですけども。それもフォローしていただきながら、「玉名市ってこんな風になるといいよね」というような、職員さんたちと一緒に考えさせてもらって、すごいすばらしいものができたのではというのは感じてます。

(村田委員): 本当に何が正解かは、今はわからないんですけども。会議を市役所のロビーでさせていただくようにしました。市役所の人たちが帰るときに、ミーティングで何をやってるのか見える姿だとか、さっきの説明でも触れましたけども、「何をやってるのか」というのを見る化したこととか。あとは、やっていくうちに気づいたのは、あんまり言うといけないかもしれないんですけど。今の行政の形っていうのは、何かちょっと自分とはもしかしたら違うから、ちょっと熱量を持って何かやりたいなと思っているような方が、何となく少しずついるような感じもしてきて。

前に何かを進めたいという熱量が、お互いにまざり合って、前に進んでいったのかなという気はしています。

(議長): はい、ありがとうございます。とても雰囲気というものが伝わって参りました。ありがとうございます。

おそらく具体の中身については後程の、まとまった方の「まちなか未来図」の説明と一緒に合わせて、議論したほうがいいかなと思うので、何かその他で何かご質問とか、いかがでしょうか。ありますでしょうか。

(事務局): 補足ですけども、先ほどの1-1の資料の4ページに、今話していただきました魅力向上委員会の皆様方の検討の経緯。それと別資料で、参考資料に、まちなか魅力向上委員会だけではないんですけども、これまでの取り組みの実績を掲載しております。

全くのボランティアで、手弁当で、これだけの回数回の会議を重ねてこられたことに対して、市職員としては当たり前のことなんですけれども、一市民の皆さん方が熱意をもって参加していただいたことに本当に

感謝申し上げます。ありがとうございます。

(議長):はい。ありがとうございます。それでは、次の資料1-2になりますね。

こちらの方の、今のご提案を踏まえて、事務局として、ランドデザイン「まちなか未来図」をまとめられたという形になるかと思しますので、まずそちらの説明をしていただいて、それでご提案とも見比べながら、意見交換していければと思いますので。こちらの1-2の説明をよろしくお願ひできますでしょうか。

(事務局):こんにちは。玉名市都市整備課の植田と申します。

私からは、ランドデザインの件について報告させていただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

最初に参考資料の方から簡単に説明しますが、本年度、民間の方々とは様々な取り組みを行ってまいりました。本協議会も合わせまして、魅力向上委員会の方々、委員会、または別に班を作って、ランドデザイン班、社会実験班と分かれて活動を行うなどして、計20回程度行っております。

また市民拡大ワークショップとして、広く市民の方々の声を聞くために、ワークショップを2度開催し、また、本年度から行っている取り組みといたしまして、出前ワークショップという、市職員が市民の方々、団体の集まる場所に、出向いて一緒に話をする取り組み等を行わせていただいております。

このような様々な取り組みを通したところで、魅力向上委員会の皆様からご提案書いただきましたけれども、そちらを踏まえまして、現在私たちが作っております、ランドデザインは策定がなされているというような形になっております。

簡単にスケジュールのお話をさせていただきますと、本デザイン協議会終わった後、この未来図につきまして、2月からパブリックコメントを実施したいと思っております。約3週間のパブリックコメントを行った後、次回デザイン協議会を3月26日に予定させていただいております。

そちらで、でき上がったランドデザイン(案)につきまして、皆様に再度ご審議いただき、最終的な決定を目指したいと考えております。それでは私から、この未来図についてのご説明をさせていただきますと思ひます。

まず表紙ですけれども、先ほど魅力向上委員会からのお話があった通り、名称につきましては、「～玉名市まちなかランドデザイン～まちなか未来図」と市民の方々に親しみを持っていただけるように、名前を変更させていただいております。

また、表紙を今は白く表示されておりますけれども、こちらはパース絵を挿入したいと考えております。絵につきましては、今回作っているランドデザインがまちなか、都市の中心部のランドデザインになっているんですけれども、当然ですが、玉名市全域に対して、こういう波を波及させる必要がございます。今回作るランドデザインでは、あくまで中心部に限ったところではありますが、他の地域とのネットワークということも非常に重要になってまいりますので、パースにつきましては、玉名市全域の絵を描きながら、今回のランドデザインがまちなかのものだよということを示せるような表現をして、表紙を飾らせていただければと考えております。

次に白紙を挟んで3ページ目に進ませさせていただきます。こちらに、玉名市長からのコメントと柴田会長から、このランドデザインについてのコメントをいただきたいと考えております。

次に4ページ目、「はじめに」という形で掲載させていただいております。こちらは先ほど魅力向上委員会からご提案がありました2番目のプロローグとなる部分です。まちなかのこれからのつくり方について、私たちの思いを込めた言葉ということで、一番初めのところにこちらの文章を掲載しております。

次、5ページ目です。目次を掲載させていただいております。目次にふさわしい写真を挿入させていた

だきたいと考えております。

次、6 ページ目、まず、計画の概要を掲載させていただいております。

こちらの方で「共に考え、共に動き、共に創り出す、幸せを実感するまちづくり」を続けるよう目指して、このプロジェクトが進んでいるということを出して、今回の計画の対象区域、まちなか区域というものを示しております。基本的に旧中心市街地に新玉名駅周辺を加えたところを、今回のまちなか区域という形で定めております。

次に7 ページになります。政策の体制とこれまでの経緯について簡単にまとめています。8 ページについては、策定体制として本デザイン協議会、まちなか魅力向上委員会、行政で組織しているプロジェクトチームについての紹介をさせていただいております。

次に9 ページ目。まちなかの現状、問題点について掲載をしているところです。人口減少や若者の流出、空き家・空き地の増加のことについて掲載しております。

次、10 ページ目、今度は逆にプラス要素として、まちなかが持つポテンシャルについて、まとめて掲載しております。市民の方々とお話し合いの中でも、やはり自然や温泉、食べ物など、やはり玉名市が持つ固有の財産、ポテンシャルというものがたくさんあるということを感じております。このようなポテンシャルを生かしながらまちづくりを進めていくことが非常に重要であると考えております。

次、11 ページ目です。こちらに、私たちが目指すまちづくりとしてのコンセプトと合言葉を掲載させていただいております。先ほどご提案がありました「みんなでつくろう！ 幸せ実感、大好き玉名」という合言葉、そして、5つのコンセプトとして「やろう！」「かたろう！」「ほっとしよう！」「つながろう！」「はぐくもう！」を市民の方々に、より見やすく提示ができればと考えております。

次に12 ページです。各コンセプトについて、今後目指したい内容と、取組の例を掲載しております。

次に13 ページです。まちなかが目指すまちづくりとして、まちなか全体の将来像を示すページとなっております。こちらパースがまだでき上がっていませんけれども、玉名市全体を見据えたようなパースへ今、作成を依頼しているところでございます。

こちらでまちなか区域を6つのエリアに分けており、各エリアが繋がりを持ってまちづくりを進めていく、連携をしていきたいということを掲載しております。

次に14 ページです。こちらがまちなか区域の連携及びまちなか区域以外との連携ということで、特に市内の岱明・横島・天水という今回のまちなか区域外のところですが、今後ネットワークや連携を図ることによって、玉名市全体として盛り上げていく。まちなかのにぎわいを高めていく、まち自体の活気を取り戻していく、というふうなことを描く模式図等を、こちらの方で掲載をしています。

次、15 ページには、6つのエリアについて掲載しております。今回、エリアごとに、イメージや、課題点、それとポテンシャル等について整理し、市民の皆様には提示をしていきたいと思っております。こちらのページには、各エリアの名称や、どのようなエリアを目指すかという形のイメージの掲載をしております。

次のページからが、各エリアごとの詳細について記したページとなっております。基本的に、各エリアの名称とエリアのイメージ、そして叶えたいコンセプトや取組の一例というものを掲載して、そのあと、皆様にはイメージしていただきやすいようにパース絵をつけるという形で、各エリア整理をしています。

先ほど申し上げました、各エリアの課題点やポテンシャルについて、これを取りまとめた上で、市民の方々に提示をすることによって、各エリアはどういうエリアを目指したいのか。そのエリアがどういうポテンシャルを持っているか。そういうことをイメージしながら、まちづくりを行うことで、より広く市民の皆様と一緒に

に、まちづくりを行えるのではないかと考えておりますので、ここに追記をしていきたいと考えています。

内容として、まず玉名駅エリアにつきましては、通勤通学者や、まちなかを訪れるみんなが自分時間を楽しむことができる、まちなかへの出発点となるエリア。まちなかの玄関口としてのエリアの醸成を図りたいと考えています。

次に、駅通りエリアにつきまして、まちなかを訪れる人々や働く人々が暮らしやすさといごこちのよさを兼ねそろえたエリア。各エリアこのような形で、メインテーマやイメージについて掲載しておりますので、詳細についてはご覧ください。

少し飛びまして 27 ページの後に公有地の活用のお話がありますが、各エリアのネットワークを結んだ連携連動の話を入れたいと思っておりますので、この間に 1 ページ、ネットワーク等を考えるようなページを追加できればと今考えているところです。

次に、28 ページですが、まちなかの公有地活用についてのお話を取りまとめております。現在玉名市が抱えている未利用地といたしまして、旧庁舎跡地、中央病院跡地、マルシヨク跡地、商業施設跡地、この 3 つがございます。こちらについて、それぞれのビジョンと中心となる行政機能を掲載しております。ちょっと文字が多く、見にくいので、2 ページに分けたり、パース絵等を入れることによって、より皆さんにビジョンを思い浮かべやすいような仕様になるように変更をしていきたいと考えています。

次に 29 ページ、今後のまちづくりの進め方、推進体制を掲載しているページです。右の絵のように、目指すべきまちなかの将来像の実現、今回のまちなか未来図を中心として、デザイン協議会、魅力向上委員会、そしてプロジェクトチームが三位一体となって、共に考え、共に動き、共に創り出す活動を続けることで、この目指すべき将来像の実現を目指して、活動を行っていききたいという気持ちを込めて、掲載しています。

次、30 ページです。こちら、今後の未来像の実現に向けたロードマップを示させていただいております。短期、中期、長期という、5 年ごとに、実際どういう取り組みを行っていかうというロードマップを示しています。また下段には、玉名市で特に大きな関心事である、新玉名駅周辺整備、玉名駅周辺整備と、先ほど申しあげました跡地活用について、それぞれのロードマップを簡単に掲載しております。

最後にコラムとして、実際にこれからまちづくりに携わっていただく方々で、この未来図の作成にご参画いただきました魅力向上委員会の皆様、そしてデザイン協議会の皆様と市職員から、今までの活動や今後の取り組みに対して、思いを語っていただくようなページをちょっと用意したいと考えております。こちらについては内容を精査してから掲載していきたいと考えております。

最後に、「一足お先にやってみた！」ということで、先ほど魅力向上委員会の皆様からお話ありましたが、本年度、実際に社会実験を年内にやってみようということで、行った内容について示しています。細かい内容としては、第 3 回目のエキマチクリスマス開催されております。こちらのイベントは、受験生を応援したいという思いをきっかけとして、民間の方々に開催されておりました。

こちらの方のイベントに、魅力向上委員会として、何かしら活動の周知につながるお手伝いができないかという話がありましたので、受験生を応援する動画を集めて、駅前のデジタルサイネージで放映したらどうだろうという発案がありまして、社会実験として行いました。結果といたしまして全部で 111 投稿、延べ人数で 276 名がこの企画にご参加をいただきました。

こちら実際にイベントの期間は 12 月 21 日の 1 日だったんですが、その前後でも放映をして、アンケート調査を行ったり、あと実際に参加していただいた人や参加できなかった人からもアンケート調査を行っ

て、今後、様々な取組を行う上での1つの指標を得るという形になったと思っておりますので、このグランドデザインに、掲載させていただいております。

以上、まだまだ粗々な部分がございますが、修正等が必要ですが、内容といたしましては、本協議会でご提示しております通り、大体固まってきております。見せ方、レイアウトの出し方、パース絵等、できてないところについては、今後修正してまいります。よろしければこの内容について、今日ご審議いただければと考えておりますので、よろしく願いいたします。私からの説明は終わらせていただきます。

(議長):柴田会長:ありがとうございました。今、ご説明いただいたのが魅力向上委員会の提案を踏まえてまとめられたものということになります。こちらはいろいろ中身も含めてご質問、ご意見等いただければと思いますが、いかがでしょうか。

(坂口委員):県の玉名地域振興局の坂口です。今回、魅力向上委員会の方々を中心に、非常に活発な議論をされて非常に良い計画ができていると率直に思っております。

私自身もワークショップ等にも参加させていただいて、非常ににぎやかに楽しく議論をさせていただきまして、いろいろな提案が出ましたので、これをまとめるのが非常に大変だなと思うところであります。事前に資料等もいただいて見させていただいた中で、4点ございます。

まず1点目が、事務局の方も認識をされていましたが、それぞれこのエリアごとに持っているポテンシャル等を中心に目指したい方向を指示してありますが、実はそれを目指すには、その地域にどういう課題があって、このように繋がったという説明があった方が、非常に皆さんにわかりやすいと思います。

実際ワークショップの中で、私はちょうどあのときは駅通りエリアで参加させていただきましたけども、やっぱりそのまちが抱えている課題・悩みとか、そういったものがあって、こういうまちがいいのではないかという提案がスムーズにできたと思うんですね。ですから、そのあたりをもう少し表現ができればというのがまず1点目です。

2点目はいろいろなエリアのイメージ図を示していただいて、非常にわかりやすいと思います。文章だけでなくこういったイメージ図があると、こういうふうに向かうんだなと、ワクワク感が出てくる。あえて欲を言えば、今このイメージ図は、昼間だけですが、多分、昼の顔があって、夜の顔があって、また1週間でいくと、平日や休日、また、季節によっても、多分いろいろなまちの姿って違うのかなと思います。もしプラスアルファで、そういったものを表現できれば、より身近に感じられるかなというのが2点目です。

3点目が、ロードマップ等が示されて今後具体的なものは、アクションプラン等になっていくということですが、かなりざっくりとした記載になっておりますので、この中でも特に、跡地の検討等というのはどちらかというとそれぞれのエリアの拠点となる施設なので、ある程度スピード感を持ってやらないといけないのかなあと思います。このあたりがもう少し細かなスケジュール感が示せないものかというのが3点目です。

4点目として、多分、この、未来図等ができて、その後も多分ずっと長くこの活動性が続くと思うんですが、当然この魅力向上委員会が中心とは思いますが、それぞれのこのエリアを実際、具体的に進めていくエリアマネジメントというか、今後どのように展開していくのかなと。魅力向上委員会の方が全部見るのか、それともそれぞれのエリアの中で、そういった人を設けるのか。もし何かあればそこだけ少し教えていただければと思います。

(議長):はいありがとうございます。今につきましてはいかがでしょうか。

(事務局):ありがとうございます。まず第1点目、エリアの課題点を入れるという点につきましては、今後、私達もグランドデザイン作っていく上で取り入れていきたいと思っております。

また昼の顔、夜の顔いろいろな顔があるというお話ございましたので、ちょっとデザイナーの方もお話をしながら、何かうまく皆さんに興味を持ってもらえるようなパースができればと思います。

次にロードマップの件ですけれども、こちらについては私たちの方としても、見せ方的に少し硬いつくりになってますし、後もう少し何か上手い見せ方がないかなとまだ検討している段階ではございます。また、次の協議会のときには少し変わった形で提示できるように検討させていただきます。

最後にエリアマネジメントの件ですが、まだそこまでは具体的な話ができていない状況です。当初の計画としましては、各エリアに分科会等を開いてマネジメントも含めたところでの検討を進めたいと考えてはいたところですが、現在、魅力向上委員会 14 名の方にご参加いただいているところで、まだご参画いただけてないエリアもあるということもありますので、しばらくは全体を見据えながらやっていく形になると思っております。

特に、やはり 6 エリアでのソフト対策や、まちづくり活動自体は当然各エリアでやっていくと思うんですが、行政として特に注力すべき場所もあるかとは思いますが。その辺につきましては、魅力向上委員会の皆様、あと、行政的立場での話をそろえながら、注力すべきに注力し、また、やはり大事なエリアマネジメントは今後、うまく回っていけるように、組織体系を作っていきたいと考えてるところです。

(議長):ありがとうございます。よろしいでしょうか。はい。何かその他はいかがでしょう。

(上妻委員):玉名女子高校の上妻でございます。この未来図の素案、大変なエネルギーを使ってまとめたいただきまして、ありがとうございます。1 点お尋ねをします。6 ページと 10 ページに関係しますが、この素案の未来図「まちなか」の定義は 6 ページにされております。この図が表すとおりなので、玉名市全域を踏まえて、玉名市の中心部の未来図という意味で「まちなか」という定義が 6 ページにされております。

これを踏まえて、10 ページについてお尋ねをします。10 ページの右下に「未来をになう仲間や子供たちがいる」のところの 3 行目の表記についてお尋ねです。「またまちなかには、3 つの高校がある他」という表現がありますが、この 3 つの高校は、先ほどの 6 ページのまちなかの定義から考えるに、県立玉名高校と、県立北稜高校と私立玉名女子高校の 3 つかなと思いましたが、ここに「3 つ」と言う必要があるのかなという感じがしました。私たち高校関係者は、玉名ってすごいなあと思っております。県立も、進学校もある。農業高校もある工業高校もある。そして私立も 2 校ある。バランスがとてもいいよねという自負をしております。そして、ここに九看大という大学も、日本総合教育専門学校という専門学校もあるよね。若者がこれだけいる町って、そんなないよねというのは自負なんです。

ですから、この「3 つの高校」って書く必要があるのか。「たくさん的高校が」くらいで、ぼやかしていいのかなとちょっと感じを受けました。九看大、専門学校もありますので。

つまり、小学校も中学校も、高校もいろんなバラエティーに富んだ高校もあります。大学もあります、専門学校もありますってことで、いわゆる次代を担う若者がいっぱいいて、「若者」とか「若いエネルギー」とか。何か、子供というと確かに幼稚園・小学校・中学校ぐらいまでが子供といって。高校はもうあんまり子供とは言いませんね、生徒とか。大学は学生とか言いますので。「若い力」とか、この 10 ページの右下の表記を少しぼやかしてもいいかなという印象を持ちました。以上です。

(議長):はいありがとうございます。いかがでしょうか。

(事務局):ご意見ありがとうございます。確かに地理的に言えば、「まちなか」に高校としては 3 校ということなんですけれども、当然このまちなか区域外の専大熊本も玉名工業も、まちなかでいろいろ活動されている方もいらっしゃいます。言われたように、小学校も中学校も、専門学校も、子供たちも含み、いろんな若者が

集結する素材がたくさんあるところではありますので、表記については、今一度検討させていただいて、いろんな層の、分野の子供たちや若い方を取り込めるような表現を考えていきたいと思います。ご意見ありがとうございます。

(議長): はい、ありがとうございます。おっしゃる通りです。非常に重要なご指摘だったかと思います。

ちなみに高校生はこれまでの検討に参加されたのでしょうか。

(事務局): 市民拡大ワークショップに参加されてる高校生とかはいらっしゃいました。

(議長): これからどんどん検討だけじゃなくて、いろんな実際の動きがある中で、やはり九看大の学生さんとか高校生は、非常に活躍していただきたい人材という意味でも、先ほどのご指摘は非常に重要と思いました。はいありがとうございます。次、どうぞ。

(中野委員): 九看大の中野です。先ほどの10ページで、うちの大学が「近接し」と書いてあったので、ちょっと諦めてたんですけど、もしよかったら、6ページ等の地図に蛇ヶ谷公園の横ぐらいに「九看大」があったらありがたいと思います。うちの大学の学生も、こちらからいろんな情報提供をしながら、参加してもらえるように促していきたいと思ってますので、もしよかったらご検討ください。よろしくお願ひいたします。

(議長): はい、どうもありがとうございます。はいそこは、ぜひお願いします。

(石津委員): 玉名で保健指導の開業をしております助産師の石津と申します。何点かお伺いしたいことがあります。20ページの高瀬・繁根木エリアのところですけど、高瀬に住んでおまして、大雨で浸水したり、菊池川が危ないと思うんですけど、「ほっとしよう」の部分で、「防災機能の充実による安心安全なまちづくり」というのが出ていて、何でこれがここで出てきているのか確認したいのが1点。また、22ページの温泉エリアの部分で、市営玉の湯っていうのはまちづくりの中で入っていますか。玉の湯をリフォームするとか、建て替えるとか何かそういう話はあるのでしょうか。

「ほっとしよう」の部分で「夜間でも浴衣でそぞろ歩きできる散策路など、風情ある安全で快適な空間づくり」と書いてあって、ここの場所、本当T字路で事故が多くて、死亡事故や夜になると特に危険な場所だと思うので、ここのまちづくりも安全面から非常に大変な部分もあるのかなと思うので、その部分の意見です。

もう1点が、26ページの部分なんですけれども、旧庁舎跡地活用と中央病院跡地活用の部分の「子育て応援施設」というのは未就園児や未就学児が対象なののでしょうか。ちょっと年代がわからないんですが、中央病院跡地の活用の若者というのは、先ほどおっしゃっていた学生や少し年齢層が高い人たちの集まる場所なのかなということなんです。子育て世代としては未就園児・未就学児・小学生など、いろんな年代の子供を抱えている家庭が多いと思いますので、ひとまとめに遊べる場所とか。あと自分自身が焼津市出身なんですけど、焼津市は東京のおもちゃ美術館と提携しておもちゃ美術館を作ったりとか。島田市とかは、ポーネランドの児童館みたいなのを作りまして。今の玉名市の児童館とは大違いというか。そういった部分でも、ここがそのように全天候型で、子供たちが楽しく遊べる場所ができたらいいなと思います。

(議長): はい。ありがとうございます。今の点3点について何かあればと思うんですが、いかがでしょうか。

(事務局): すいません、ご指摘ありがとうございます。まず20ページの高瀬地区に防災の拠点ということが書かれていることについてなんですけども、旧庁舎跡地の文化センターが、玉名市で一時避難所としての機能を有しております。古くから市役所庁舎があったことであるとか、地域の公民館、中央公民館としての機能があるということで、避難所としてはずっと使われてきているところです。そういった意味で玉名市、特

にまちなか区域の方々からすると、何かあったときにはあそこに避難すればいいというイメージも定着していると思いますので、それを大事にして、防災拠点としての位置付けはやはり外せないという考え方を持っております。今いろいろな検討をされていて、いわゆるハコモノ、施設をどうするかということは、1つ大事なところですけども、まず機能として、どういう形で市民の方々にサービスを提供するかということが第一義かなと今検討を進めているところです。どういう施設を作るということまでは、まだ明確には話できませんが、今後そういうところをしっかりと視野に入れながら検討を進めたいと思っています。

次に22ページですけども、温泉エリアの玉の湯のお話があったんですが、玉の湯も確かに老朽化していますので、その利活用についても、今、担当課で検討を進めているところですので、また何かしら時期が固まってきたときに、皆様にお示しができるのではと考えているところです。

道路につきましても、やはり安心安全に暮らせること、皆さんにご使用いただけることは非常に重要であります。今回示しているものは今後のまちづくりの将来像ですので、特に安心安全に関してビジョンになくても必ず市の方として担保していないといけない大事な要素の1つであると思っておりますので、その点につきましても、このビジョンと合わせて、まちづくりの中でしっかり考えながら、進めていきたいと考えております。

また26ページ、現在、跡地活用につきましても、市でも跡地活用分科会という特別なプロジェクトチームを作って、より詳細な検討を進めております。

その中で今回、このグランドデザインには、関係各課で集まって導き出した1つのビジョンとして、お示ししているところで、旧庁舎跡地がどちらかというと低年齢層のお子さんたちが集まる場。それと中央病院の方が、少し世代が上で高校が立地的に近いので、年齢層が少し高いところにイメージがあるのかなと思っております。ビジョンとしましてはそういう方々をターゲットに置きながら、ハコモノであったり、機能の整理について検討しています。

まだまだこちらについても、外部の方々からの意見やお話を聞きながら考えているところですので、一応ビジョンとして、そのようなイメージを持っていることをこちらのグランドデザインでは記載しております。

(事務局): すいません。よろしいですか。跡地活用分科会を、担当しております企画経営課から補足があります。

(企画経営課): こんにちは。企画経営課の松本と申します。旧庁舎跡地におきまして、28ページで子育て応援施設、子供の遊び場ということで、ご提示しております。先ほど石津委員が、未就学児、あと就学してらっしゃる子供さんも含めてというお話がございましたけれども、今年度玉名市におきましても、アンケートをとる中で、未就学児の子供さんを持たれる親御さんと、就学児、もうすでに学校に通ってらっしゃる子供さんをお持ちの親御さん。ともにやはり安全で遊べる場所を求める声というのは非常に多いということがございましたので、非常に重く感じているところでございます。

先ほど石津委員からも他の自治体の事例ご紹介ございましたけれども、他の自治体で展開されてる子供さんの遊び場、提供されている部分を研究させていただきまして、ビジョンに書いてありますとおり、子供さんが健やかに成長できる。そういったビジョンを実現できるような、遊び場を実現させていきたいと考えております。以上になります。

(議長): はいどうもありがとうございます。石津さんよろしいでしょうか。はいありがとうございます。はい。どうぞ。

(丸山委員): 玉名観光協会丸山でございます。前回参加したときの印象と比べて、非常に中身が詰まって説明もわかりやすく、役割分担もすごく皆さんが認識されているのが伝わってきて、会議を積み重ねてこられたんだと思います。本当にお疲れ様でした。

将来像がイメージしやすい説明と資料で、すごく、ワクワクする印象を持っておりますけれども、観光協会としては、将来像としての新玉名駅エリアについて、質問します。新玉名駅は新幹線という大動脈がありながらも、なかなか周辺のインフラが整備されずに今に至っております。そこに物産館も、観光協会でもたまららを設置しておりますけれども、近年はこの新玉名駅周辺の開発、促進ということでいろんな話を聞いております。

新年の賀詞交換会でも、蔵原市長からホテルの誘致とか、そういったことも発表がありました。非常にこのエリアが今後5年10年大きく変わるんじゃないかと期待をしておりますし、やはり観光の入口としては、非常に重要なエリアだと考えております。

ここの26ページの中で交通結節機能についてイメージが書いてありますが、この点は、本当に今、非常に不足しているところでもあり、今後充足させていきたいというところでもございます。

観光協会ではレンタルバイクをこちらに整備しまして、実証事業ということでやっております。以前レンタカーもしておりました。今レンタルバイクもしておりますけれども、やはり一団で、経済負担を負ってこの公共交通結節機能を充足させるというのは非常に課題が大きく、経済負担が大きいものでございます。

やはり玉名全体に波及する、観光、観光人口の増加というところに、この新玉名駅エリアの交通結節機能を強化するというのを、やはりこの玉名市全体の計画の中に、組み込まれていくと非常にありがたい。やはり駅前に進出をされるホテルや商業施設さんも、広い分だけすごく近く見えるけど歩くと結構距離があると感じると思います。なかなか玉名市役所まで我々は歩いて行こうとはならないものですから、そういった意味で、この交通結節機能を中心にといいですか、ぜひこの新玉名駅のインフラ整備に、我々観光協会としても、何かお役に立てることがあればという意見でございます。

それとこの将来像の中は、いろんな一筋縄ではいかないことばかりですので、他の委員もおっしゃったようにそのロードマップをどう作るのかというところに、観光協会としてもやはり非常に興味がございます。そういったところを今後も興味深く、ぜひ情報更新等ありましたら、参加させていただければと思います。以上です。

(議長): はい、どうもありがとうございます。今の件はよろしいですか、はい。

(事務局): はい。ご意見ありがとうございます。ご指摘の通りこのまちなかエリアだけでも、広い地域がありましてここをやはり公共交通を含めたところの結節をすることが非常に重要であると考えています。

この後議題2で触れますけれども、玉名市ではこのまちなか区域に都市地域交通戦略という交通の計画を今進めているところです。この中で、特に玉名駅と新玉名駅を結ぶということに関して、今まで話し合われてきたワークショップの中でも、やはり大きな声が上がっているところです。

その中でこれから必要となるシェアモビリティであるとか、新しいモビリティも含めたところでの検討が必要であるという認識のもとに、こちらの交通戦略を来年再来年にかけて作っていかうと考えておりますので、その点につきましては、しっかり議論を進めながら取り組んでいき、内容についてはご報告できればと思っています。

ロードマップにつきましては、今回このグランドデザインでお示しするものについては、ちょっと簡素な部分ですけれども、来年アクションプログラムで、より詳細なものを作っていきます。実際に、どういう人がどういうことをいつまでにやっていくかということを示すアクションプログラムを策定していきますので、そちらの方でまたより詳細なご提示ができるとは思っております。またその都度、委員の皆様にはご紹介しながら、審議いただきながら進めていきたいと考えております。

(議 長): どうもありがとうございます。はい、どうぞ。

(事務局): 補足的に申し上げますと、交通に関しては先ほど都市地域交通戦略の方で考えていくことにはなるかと思いますが、この未来ビジョン全体にわたって、いろんな取り組み例等書いてあります。当然、行政だけではできないものも多々ありまして、一緒に取り組んでいく民間事業者や、企業を開拓していったって、いろんな事業を、1度に大きいことをやるのではなくて、小さなことを試してみて、バージョンアップしてみてということを繰り返しながら高めていくということも1つ大事なことだと思いますので、今後ご協力をお願いできればと思います。よろしくお願いします。

(議 長): はい。ちょっと今のことに関連して、通常、更新をどう考えているのかが結構重要と思うんですけど。こちら辺は何か議論がこれまであったりしたんでしょうか。要は、毎年できたところから書き換えていくやり方もあると思うし、ビジョンだからもう少し長期でという考え方もあるし、そのあたりはどんな感じでしょうか。

(事務局): 更新の時期につきましては、やはりビジョンというものであるもので、すぐに更新してくのもおかしいのですが、ただ、内容についての検討や検証については、随時行っていく中で、もし変更しなければいけないような内容が出てきた時には大体10年ぐらいを目途に、見直しをかける必要があるかなと思っております。ただ検証に部分につきましては、やはり細かい頻度で行っていく必要があるのではないかという話をしているところです。

(議 長): はい。大丈夫ですか、はい。

(事務局): この未来ビジョンの中では30ページに簡単なロードマップを載せておりまして、一番上の方にアクションプログラムを作っていく中で、実行計画に基づく取り組みをして見直しをしていくという。今表としては5年スパンのような書き方になっております。

この未来図自体は、大きな構想になりますので、この構想を掲げた上で、実行計画、アクションプログラムを更新・バージョンアップしていくことはあると思います。

(議 長): はいそうですね。多分そういうことですね。わかりました。すみません私からです。

アクションプログラムにこれから繋がっていくわけですけど、気になっているのが今の更新の話と、それからもう1つは、特に跡地利用かもしれないけども、多分このままアクションプログラムに行くと、従来型の検討イメージをされる方もいると思うんですね。お役所がまたこれに基づいてあそこのアイデアを考えるのかなという感じで。

でも多分これからのこういう、特にハコモノはやっぱ使い手をイメージしつつ、使い手も当初から巻き込みつつ、先ほど子育てとかという話があったのであれば、そういう方も巻き込みつつ検討したり、もしくはそれを、例えば公設公営なのか公設民営なのか、民設民営なのかも含めて検討があると思いますが。

民営であれば、事業者さんをどこの段階でどう巻き込むかとか。多分この場に肥後銀行さんがいらっしゃるのそういう意味合いがあると思うんですね。やっぱりその辺りも含めて、ランドデザインですが、そのアクションプログラムにつなげていく際の、具体的にこうしますではなく、こうやって使い手も巻き込みながらやってきますとか、更新をします。何かそういうものが最後のページにあった方が、その後につながるやすいと思うので、ぜひそのあたりもご検討いただいた方がいいと思いました。いかがでしょうか。

(事務局): ありがとうございます。一応、アクションプログラムにつきましては先ほど役割分担の話を書かせていただきましたが、単純に行政内でどこの課がというお話だけではなく、行政民間どちらがどういうふうな役割を持っていくかを含めたところでの考えを持っているところです。

魅力向上委員会には、今後もまちづくり活動にご支援いただき、このアクションプログラムについても、

検討に関わっていくことが必要ではないかと考えているところですので、柴田会長のお話にあったとおり、そういう意味合いでの役割分担というものをしっかりやっていきたいと思っております。また書き方につきましても検討させていただければと思います。

(議長): はい。ありがとうございます。ぜひよろしく願います。その他いかがでしょうか。

(大廣委員): 玉名町区長会長の大廣と申します。よろしく願います。行政区は春出1区です。

世帯が多い地域ですけれども、特に区長会で、とにかく今、空き家、空き地が増加していくという話が合っています。いろんなことで苦情が入っております。このまちづくりの構想で、空き家とか空き店舗をどのようにこのまちづくりに対して位置づけるのか、将来像に向かってどのような考え方で、作っていくのか。その辺はまだ定かではありませんので。議論がいろいろありますけれども、これは持ち主がおられるので、なかなか至難のわざだと思います。その辺を含めていろいろ、お答えいただければと思います。

(議長): はい。いかがでしょうかその辺りは。

(事務局): ありがとうございます。やはり空き家・空き店舗の問題は、非常に大きな問題であるという認識を持っており、このグランドデザインにも、利活用をしっかり進めていきたいということを示しております。具体的な内容につきましては、このグランドデザインに基づいて細かい個別計画等を立てていく必要があると考えています。特に行政が主体的に使うというよりは、民間の方々と一緒に利活用を考えていくとか、促進をしていく取り組み等も必要になってくると思います。やはり空き家があるとどうしてもにぎわいがないように見えてくると思いますので、そこについては十分、民間の方々と一緒に活用方法について検討を進めていきたいと考えております。

(議長): はい。よろしいでしょうか。空き家はとても重要な問題ですので、すべてに関わってくると思います。では続きまして、はいどうぞ。

(大草委員): 産交バスです。まず 30 ページの「進め方」というところですが、先日、駅前のミーティングに加わらせていただきました。

この計画を見ますと、玉名駅周辺整備が 2035 年まで矢印が延びていますけれども、玉名駅前の整備に関しましては、私どもとしては職業柄、早くしていただきたい。現在バス乗り場が 2 つありますが、横断歩道があったり、ちょうど通り道であったりと、非常に危ないところもございます。ですので、いつ整備されるのかと期待をしています。ただこれを見ますと、2035 年です。あと 10 年になると、整備に関しては買収なども必要でしょうし、その間に建物が建ってしまったら、どうしても手をつけられなくなったりすると思います。ですので、ある程度トータルで進めていかないといけない事業とは思いますが、その玉名駅周辺、特にハード面で、ある程度構想を立ててスピーディーに、玉名駅前の整備とか、例えば新玉名駅もそうでしょうけども。10 年というスタンスはちょっと長過ぎると思います。どれを早めにするのか、ハード面がいいのかソフト面が早いのかわかりませんが、ある程度もう少し短縮して、進めていけないものかということで、交通事業者からの希望です。

(議長): はい、どうもありがとうございます。いかがでしょうか。

(事務局): ありがとうございます。これから先の詳細な進め方につきましては、来年度作成するアクションプログラムの中で、より深い検討をした中で施工時期等についての検討を進めていきたいと思っております。今お話しいただいた内容につきまして併せて検討を進めながら、整備時期についてはまた皆様にご提示ができればと思っております。

特にハード事業については大きな予算が伴いますので、慎重に議論が必要と思うんですけども、ソフト

事業については、スモールスタートで、どんどんできるところから進めていくと考えておりますので、今後ともよろしくお願ひします。

(議長):はい、どうもありがとうございます。その他はいかがでしょうか。

(坂口委員):今の30ページのこの図の作り方ですが、色が、例えば玉名駅周辺整備でいけば、赤があつていきなりオレンジというか整備区間ってなってますが、多分段階的にできる部分とかもあるので、徐々にこの赤からオレンジになっていくような色の書き方で表現するのもあるのかなと思います。

この玉名駅周辺整備は、多分もっと少し広いエリアの中で考えられていますよね。その中でも、ある程度早くできるものや、少し時間がかかるものもあるので、そういった図を工夫した方がいいのかと思います。その中で早くできる分はやっていくという形かなと思います。

(議長):はいありがとうございます。ぜひその辺りも工夫していただければと思います。その他いかがですか。

私から、もう1個確認があるんですけど、今更なんですけど、今日この場でご報告いただいて、皆さんからたくさん意見を言っていたくという形でよろしいんでしょうかね。

(事務局):スケジュール的には先ほど植田からも説明しましたが、本日この素案というところちょっと粗い感じの素案を見ていただきまして、こういう方向性で取りまとめていっていいでしょうかということを伺いまして、今いただいた意見等を踏まえて修正等を加えたものを、2月10日からパブリックコメントを実施する予定です。

その後、事前にお知らせしてありますが、3月26日にもう一度この玉名市まちなか未来デザイン協議会を開きまして、そこで諮問、答申をいただくということで考えております。その後、今年度内に策定する見込みで考えておりますので、今日、十分にご意見を出していただいて、それを踏まえた修正を付けていきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

(議長):はい。なるほどそういうことですね。パブコメをするということなんですけど、多分それだけではなくて、とても重要なことが、市民の方にどう広めていくか。それが一番かと思ひます。

いやパブコメ自身もどうやって実施するのかって実は結構工夫の余地があつたりもしますよね。ですのでもちよつとそのあたり、これを策定後なのか。今作ってますから、作っている途中なのか、いろいろタイミングがあるんですけども、どうやって市民の方に広めていくのかなっていうのは、結構重要なかなと思います。それについて、事務局で何かアイデアがあるか、もしくは、委員会の方で何かそういったお話があるのか、その辺りいかがでしょうかね。

(事務局):パブリックコメントにつきましては、市として要綱を整備していますので、それに基づいて手続きをしますが、以前都市計画マスタープランの時にも行いましたが、インターネットを介して、入力フォームで回答できるような仕組みも検討の余地はあると思ひます。それと、魅力向上委員会の方にも考えがあられますので発言していただきたいと思ひます。

(福富委員):福富と申します。魅力向上委員会にも、いろんな団体に所属してらっしゃる方とかいらっしゃいますし、また今日いらっしゃってませんが青年会議所さんですとか、いろんな各団体があるかと思ひますので、そういったところにもパブリックコメントをお願いして、いろんな世代の方から意見集約できたら、なおさら良いクオリティのパブリックコメントになると思ひしております。やはり先ほども言いましたけれども、ただ市のホームページに載せるだけではなく、そういったいろんな力を皆さんから力をお借りしながらやっていけたらいいと、魅力向上委員会でも思ひしております。

(議長):はい。アイデアですけどパブコメに合わせて、例えば何かシンポジウムみたいなことができれば、こん

な思いで作ってきましたという説明を合わせて聞いていただけて、これで意見くださいって言いやすいと思ったんですけど。なんかそんなことも含めてできたらどうかと思ったんですけど、いかがでしょうか。ただ年度内ということがあれば、スケジュール的にかなり厳しい面はあるんですけど。いかがでしょうか。

(事務局): 大々的なシンポジウムというのは難しいかもしれませんが、実はこの間打ち合わせのときに、魅力向上委員会の方で、そういう学習会的なものも含めてできないかということを計画されています。詳細はちょっと今わかりませんが、それとあわせて、取り組んでいけたらと思います。当然策定後につきましても、広く市民に周知できるようなことを考えていけたらと思います。

(議長): そうですね。できる場所で小ぢんまりでもいいので、説明会っていうタイトルじゃない方がいいと思うんですけど。でもそれも含めて一緒に考えましょうというようなセミナーというか、報告会なのか、何かそういったものができた上でパブコメをすると、より皆さん意見が言いやすいのかなと思います。いろんな団体が関心を持ってらっしゃると思いますし、関わっていらっしゃると思いますから、それこそ出前講座という方法もあり得ると思ったりもします。より実質的なパブコメになるような工夫が、とても重要かと思いますので、ぜひ、委員会の皆さんも含めてご検討していただければと思います。ちょっと無理を申し上げますけれども、よろしく願いいたします。はいその他いかがでしょうか。どうぞ。

(事務局): もし、ご意見がないようであれば、この未来図の 31 ページですけれども、この未来図の策定に関わっていただいた方のコメントを紹介するページをコラムとして設けております。このデザイン協議会の皆様の中から 2 名ほど選出していただけたらと思いますので、この場でちょっと決めづらいのであれば、例えば会長に一任していただくとか。そういったことを 1 回諮らせていただけたらと思います。

(議長): はい。ここに誰か、インタビューを載せたいということでございますので、ぜひどなたかお願いしたいと思います。事務局に一任してもよろしいでしょうか。そのように進めさせていただきたいと思います。

その他いかがでしょうか。2 月にパブコメがあって、その結果を踏まえてまた 3 月に、このデザイン協議会の場があるということですね。その時に、ある意味行政的には正式決定されるということになると思いますので、皆さんもぜひパブコメにご参加いただきたいですし、3 月またご意見をいただきたいと思います。どうもありがとうございます。

それでは大分時間が過ぎてしまいましたので、ちょっと次の議題にいきたいと思います。

次が(2)まちなかの街路交通についてということで、まず、先ほどお話がありました都市・地域総合交通戦略の推進についてということにつきまして、まず資料の説明をよろしくお願いいたします。

(事務局): 事務局の中川でございます。(2)まちなかの街路交通についてのうち、①都市・地域総合交通戦略の推進について、ご説明をしたいと思います。

前回、玉名市都市地域総合交通戦略については、JR玉名駅を中心とした地域の公共交通を含む総合的な交通と、まちづくりを合わせた基本計画を、国土交通省の事業を活用して策定すること。その推進体制には、まちなか未来プロジェクトを推進する全体構想や必要となる組織体制として条件を満たす本協議会「玉名市まちなか未来デザイン協議会」を、その検討承認機関として位置付け、交通戦略の実施、評価見直しなどを行い、推進するとして全体的な説明を行ったところでございます。

ただいま玉名市まちなかランドデザインまちなか未来図(案)で説明があったように、対象エリアにある 6 つの拠点共鳴することで、まちなか一帯が融合しにぎわいを再生すること、さらには周辺地域とのネットワークが強化され、市全体が活性化の好循環が生まれ、市民が幸せを実感できるようなことを期待しているところでございます。

その中で玉名駅の交通結節点機能の強化と、周辺地域からの広域ネットワークの構築に寄与する、玉名駅の南北を接続する道路、かつ公共交通を活用した中心部へのまちなかの回遊・誘導する施策を、令和7年度に取りまとめ、玉名市地域交通戦略を策定する予定でございます。

長くなりましたけども、委員の皆様お手元の資料の2玉名市都市地域交通戦略の策定についてご覧ください。イメージとしては右のネットワーク図にある通り、市中心部から道路や鉄道で周辺地域が結ばれており、中心部とのネットワークが構築されています。特に交通結節点である玉名駅は、通勤者や学生など上熊本駅と同程度である1日あたり5000人の利用があります。

その駅周辺には商業施設が集積しており、以前は繁栄しにぎわいがありましたが、現在は空き家や空き店舗が増加、店舗から住宅への用途変更も顕在しております。駅舎は昭和35年築で64年が経過している状況です。

道路網については、玉名駅を南北につなぐ道路がなく分断しておりまして、人や車の往来など不十分であり、その結果、駅周辺の魅力やまちなかへの回遊性についても低下している状況です。

この課題に対して、ネットワーク図の下にオレンジの吹き出しがあると思いますが、市内南北エリア等の連携として、南北をつないだ道路を整備することによってまちなかエリアから玉名市全体にぎわいが広がるなど、上の青色部分ですけれども、まちなか地域の回遊性として、歩行者空間の整備、公共交通シェアモビリティの充実で、回遊したくなる、しやすいエリアが形成されると考えております。

今後緑の矢印のようにまちなかの各拠点を魅力的な空間にして、まちなかルートを設定したりして街歩き、公共交通、シェアサイクルなどで回遊性を向上させ、まちなかの滞在時間や交流関係人口の増加などを期待しているところです。

このような中、今年度の業務内容についてですが、左のオレンジの枠下に令和6年度の進捗状況がございます。8月に業務委託を発注し、JR九州コンサルタンツが受託しまして、玉名駅の南北を接続する骨格幹線道路の平面交差と、単独立体交差、これはアンダーパス1案と、オーバーパス2案の検討に伴います、現地調査と平面測量と道路予備設計の与条件の協議が今完了しておりまして、これから平面と単独立体交差の比較及び予備設計の業務に着手するところです。まだ検討途中でございまして、お出しする資料はございませんが、次回はお示しできるものと考えております。

また令和7年度の計画について、駅利用者の調査やまちなかの駐車場の調査を実施。加えて骨格幹線道路の結果も含めて、駅周辺整備の検討を策定予定でございます。その内容は、南北駅前広場の整備に関する基本的な方針、必要な機能施設の配置案を検討いたします。また、南北の歩行者の回遊を可能とする駅舎を含む自由通路やまちなかへの回遊性向上には、車からまち歩き、車から自転車へ、車からバスへと乗り換えする駐車拠点についても検討を行います。

次に2ページ中心フロー図をご覧ください。事業の推進体制については先ほども申し上げた通り、玉名市まちなか未来デザイン協議会に国が示している都市交通戦略協議会の役割機能、位置付け、将来の像であるまちなかランドデザインに基づき、中心部と周辺地域の連携を図る道路網、公共交通、歩行者、自転車の環境改善といった交通施策とまちづくりが一体となった目標を設定し、必要な施策事業を適切に組み合わせ、ハード・ソフト事業を推進する、集約のまちづくりの実現を図るものでございます。

次の3ページをお願いいたします。

その実現には、国土交通省2分の1の補助がある都市地域交通戦略事業を今年度から引き続き活用したいと思っております。写真にあるとおり左上からのバス鉄道の施設であったり交通結節点の整備では、

自由通路や駅前広場、あとシェアサイクル、自転車、駐車場など交通結節点や公共交通施設などが補助対象となっております。現在第1期として整備計画の策定を令和6年度から7年度までを予定し、引き続き計画に沿ったハードの計画を立てて、第2期と移行していく予定でございます。

次に、4ページ他市の先行事例についてでございます。

左の方にタイトルありますけども、事業費は最大47億円、駅周辺整備基本計画案ということで飯塚市の飯塚駅周辺地区整備をご紹介します。

飯塚市ではJR駅を中心とした163ヘクタールを対象に、駅東西を結ぶ自由通路や東西駅前広場アクセス道路、公園などの整備を行い都市機能の充実と、交通結節点の強化による市街のコンパクト化、駅周辺の利便性や回遊性の向上、駅東西の1帯によるにぎわいの創出を図るとしています。特に自由通路については、駅舎の建て替えに合わせた一体整備を想定されており、東西の駅前広場と駅舎を含んだ事業費については28億から、36億円を見込んでいます。

次の5ページから6ページについて基本計画の概要を添付しております。最後の6ページをご覧くださいと、右側に完成イメージがあります。白がJR所有の既存の通路やホーム、灰色の屋根が整備予定の駅舎や自由通路を作って東西の回遊性の確保や、その他駅前広場駐輪場、駐車場などの新設を行い、利便性の向上やにぎわいの創出を図る計画となっています。

本市としても、市の玄関口であり交通結節点である玉名駅の機能強化と、まちづくりを合わせて推進していきたいと考えております。

以上、玉名市都市地域交通戦略の進捗状況と、他市の先行事例についてご説明を申し上げます。以上で終わります。

(議長): はいどうもありがとうございます。大体2000年代以降ぐらいになるんですけど、例えば国交省の何かこういう事業をする際には、地元でこういう協議会を作って、その場で、一部だけじゃなく、それを含めた周辺の計画を作って、それに基づきその整備に対して補助金を出しますという形が非常に多くて、まさにこれがその形でございます。この未来デザイン協議会が、この都市交通戦略協議会を非常に密接に関連しますので兼ねていくことになるということでございます。

その上で今年来年と書いてありますが、あくまでこれ調査・計画づくりでございまして、それを踏まえて、どうなるかということかと思えます。といったような今ご説明があったわけなんですけど何かこれにつきましてご質問等ありますでしょうか。

ちょっと私から質問です。先ほど大草さんからご質問があったことと関連しますが、これを踏まえて、もしこれでやろうという話になったときの、スケジュール感。R7年度以降だからR8年度から、すぐに設計なりが着手できるのか、もう1個前段階で何かやらなきゃいけないのか、この後R8年度以降もしやるとなったときにどんな感じ、どんなスケジュール感になるのでしょうか。

(事務局): 来年度4月以降の事業としては、おそらく予算の内示が7月にあるかと思えます。それからこの事業計画の策定にあたって、業務の発注をかねまして、3月まであまり期間はないんですけども、その中でこのデザイン協議会に案を提出し検討していただくことになると思います。先行事例で配置案などありますが、こういったところで駐輪場とか駐車場を自由通路、タクシーバスターミナル、こういったものをどう配置するのかを具体的に検討してさらに、玉名駅から旧中央病院跡地や、温泉街、高瀬の町などをシェアサイクルやEバイクもございますけども、そういったまちなかを回遊させて、滞在時間をふやすようなことも合わせて計画をします。その中で別途まちなか未来プロジェクトのランドデザインの中でもアクションプロ

グラムの中でも併せて検討していきたいと思います。今のところ、どこから始めていくのかというのは、まだございませんけども、早ければ令和8年度にその計画に合わせた事業を要望していくことになるかと思えます。

(議長):はいわかりました。何かその他いかがでしょうか。

(中野委員):ちょっと質問というか、感じたところを話したいんですけども。第2回の拡大ワークショップに参加させていただいたときに、当時の蛇ヶ谷・温泉エリアのところで、ワークショップに参加させていただきました。構成員が、私と学生さん2人と、あと市の職員の方と、年配の市民の方いらっしゃったんですね。

その時に、どうしてもエネルギーがある方が議論を展開していく形になってしまって、それはそれでいいことだと思うんですけども。楽しいとかにぎわいとか、そういう仕掛けを考えることの方が多くなっていて、だんだん年配の方が、目を閉じられてしまったりとかした傾向があったんですね。

それは1つの事例なのかもしれないですけども、今後、コンパクトプラスネットワークとかいう形で、免許返納後の生活も考える必要があると思います。特に今回はまちなかのエリア、まちなかの中心エリアでやってるので、そこまで影響ないかもしれないんですけども、周辺地域の岱明などの地域拠点とか、あと、エリアごとでやっていくときとか、そういったときには、元気な高齢者なのか、もう少し不自由になってしまったときの高齢者なのかとかというのがイメージがわからない。

そうなっていくと、結構発言力がなくなっていってしまうという現状が、仕事柄ちょっと感じる人が多いので、そういった意見もうまく取り入れながら、今回の件とか未来デザインもしっかりやっていった方がいいかなというちょっと感じを受けてました。以上です。

(議長):はい、どうもありがとうございます。非常に重要なご指摘だと思いますし、私もこの計画自体はとてもしいいことだと思うんですけども実質的なものをしていかないといけないと思います。その時に、先ほどあったまちなかランドデザイン、まちなかのお話という意味合いでも、この駅前をどうするかというのはとても重要ですけど、今おっしゃっていただいた周辺との関係です。岱明なり横島なり天水との関係という意味でも、この駅というのはとても重要かと思えますので、そういった観点でもこの検討を進めていただく必要があると思います。

その時にやっぱりこの1枚目の(3)の③ですよ。当然、南北の道路や駅広とか、その辺り当然じっくり検討されると思うんですけど、一番最後の③のこの回遊性向上ですよ。ここがやっぱり今の意味合いでもとても重要だと思います。

たぶん「Eバイク整備したらいいですよ」「オッケー」というわけではないですよ。どうやって使ってもらうかとか、使った先の車道なり歩道が、歩きやすかったり、自転車で通りやすかったりするかどうかということも含めて、まちなかランドデザインとしては考えていかないといけないわけです。

ここ先ほど6つのエリアの議論がありましたけど、それをどうつなぐかっていう話と、とても繋がる重要なお話かと思えますので、そういった観点でも、この協議会の場で兼ねてくるということになるので。来年度以降おそらくこの場でも皆さんにご意見を伺うことになるかと思えます。そういった形でもぜひ考えておいていただければ、非常にありがたいと思います。その他いかがでしょうか。はいどうぞ。

(佐藤委員):玉名市金融協会から、肥後銀行の佐藤と申します。

先ほどのランドデザイン、大きな絵を描くという話から、打って変わって非常に具体的な細かい話の共有になってますけども、こういう情報、この計画については、結構オープンにされている計画なんですか。この情報の取り扱い、どこまでやったらいいのかということと、あとこのプロジェクトがどんどん進んで

いく中で、資金等々については、ぜひ肥後銀行ご利用いただきたいなと思っております。以上でございます。

(議長):いかがでしょうか。

(中川委員):ご意見ありがとうございます。一応来年は、周辺整備計画の検討ということですので、これが実現するかどうかというのはまだわからない状況です。当然市の財源もございますので、来年の検討の中で、進んでいければと思っております。以上です。

(議長):これ、玉名市にとってはすごいことですよ。駅前で南北が繋がるって、もし実現すれば市民生活的にもとてもすごいことだと思うんですよ。

ですから要は検討段階から先ほど申し上げたように、これについてもやっぱり市民をある程度巻き込みながら、市としては「本当はお金がないんだ」「これほどこまでできるんだ」っていうようなことも含めて、議論していかないといけないような、結構大きな話題ではないかなと思います。ぜひそこは特に来年度と思うんですが、ご検討いただければと思います。

はい。その他いかがでしょうか。

(大草委員):産交バスです。先ほどお話ありました、この駅前の計画に取り込んで初めて予算が出るということではお話ししました。そして実際6年度進捗状況、7年度計画ということで各報告っておりますけれども。この駅前が、大体どれくらいにこういう素晴らしい駅ができるという、予想や計画は市で持っておられますか。大体で構いませんけど。まだ、まだわからないですかね。あまり先だけど、やっぱり状況が変わると思うんです。市長が変わったりとかいろいろ予算の面で、大体の目標というのはまだわからないですかね。

(事務局):そうですね、まだ計画の来年検討ということですので、一応概算費用等もはじいていきますので、その中でその優先順位を含めて検討するということなんです。私の肌感覚で言いますとやっぱり10年ぐらいはかかってくるんじゃないかなという感覚はしております。ただ、駅でも北側から行くのか、南側から行くのかとか、そういった事業の中の優先順位はその計画の中でも記載を行って、長期的な計画を立てていければと思います。

(大草委員):ありがとうございます。

(議長):はいどうもありがとうございます。これは引き続き来年度以降も皆さんのご意見をいただければと思います。その他いかがでしょうか。

だいぶ時間があき過ぎてしましまして、最後になりますけども「都市計画道路玉名駅平嶋線の事業化について」ということでこちらの資料の説明をよろしく願いいたします。

(事務局):はい。都市整備課の中川でございます。資料3をご覧ください。「都市計画道路:玉名駅平嶋線の事業化について」をご説明いたします。航空写真の中心にある、赤線が玉名駅平嶋線でございます。JR玉名駅と国道208号を接続する都市計画道路です。起点側と終点側はすでに整備が完了しております。

今回の事業区間は起点がハローワークの入口交差点から、歯科医院がある終点まで全長が1030メートル。道路幅員は右断面図にある通り、片側自歩道3.5メートル、路肩1.5メートル、車道3メートル、合わせて8メートルの両側で、16メートルとなっております。

目的としては上段の概要に記載しておりますが、玉名駅平嶋線は、南北に玉名駅や県道寺田岱明線、国道208号線を接続し、南関インターチェンジ菊水インターチェンジやJR新玉名駅及び玉名駅、

有明沿岸道路方面へとつなぐ都市計画道路でございます。

現在寺田岱明線と国道 208 号線を結ぶ、南北方向には境川沿いの市道がありますが、幅員が狭小で曲線も多く、幹線道路としては不十分と考えております。広域道路網や市内縦貫道路としての機能も脆弱と言う状況でございます。このため新たに南北を結ぶ幹線道路、玉名駅平嶋線を整備することで、広域網や市内循環道路の機能を強化し、道路利用者の利便性を図る。一方で、JR玉名駅とを接続するため公共交通網の連絡強化、災害時における交通ルート、物資の輸送ルートの確保や避難経路としても活用できるため災害に強いまちづくりにも寄与するということでございます。

令和 3 年 5 月に市道岱明玉名線が供用開始しまして、そのあと都市計画道路の見直しや、都市計画道路整備プログラムを策定を進めており、その中で玉名駅平嶋線については最優先の道路ということでございます。

事業化について、右上に事業スケジュールがございますけれども、令和 7 年度、今年 6 月に国へ概算要望を行って、令和 8 年度から詳細設計、用地取得工事と段階を経て、令和 12 年度に完了を見込んでおります。

写真の左上、赤線のところに星印がありますが、この場所において昨年 5 月に宅地分譲に伴う開発許可が申請されまして、開発前後で道路整備を行った場合の経済比較を行い検討したところ、用地の先行取得が有利なため、9 月補正で暫定措置に伴う予算を編成し工事を行っているところです。

次のページ、右側に写真がありますが、この区間を整備するということになってます。

さらに次のページ、暫定整備に至った経緯をつけておりますけれども、先ほど、申しあげました通り都市計画道路では優先順位が第 1 位と。それから、経済比較の結果 1 億 5000 万程度の事業費の削減がありますので先行取得を行ったという経緯です。

次の 4 ページ、令和 6 年 9 月に測量設計工事、用地電柱移転で総額約 3400 万補正したところです。下の工程表を見ますと、10 月に道路工事を発注しまして、現在山砂で盛土をして、1 月中に上下水道の工事の発注がありまして、3 月末には路盤までですけれども暫定で完成と、そして来年度表層をかぶせまして、暫定措置による道路整備をすべて完了する予定です。

次の 5 ページ、12 月 18 日現在の写真をつけております。左上が着工前、その他が着工している施工状況の部分です。真ん中にイラストがございますけれども、路床を入れたところです。山砂です。

次のページをお願いいたします。玉名駅平嶋線の用途区域見直しの検討ということで入れております。右に説明を載せておりますけれども、12 月議会の一般質問において玉名駅平嶋線の沿線地域の用途地域について質問がございました。その中でお店やオフィスなど商業施設も建てられようを変更すべきじゃないかと。いう質問がありまして、答弁では周辺の幹線道路もそういった 30 メーターの用途幅が設定されていくところもありましたので、結果として住みやすいまちづくりに向けて、状況を見極めながら見直しも含めて検討するという答弁を行っております。

実際、図で見ますと築地立願寺線、国道 208 号線の下の方に青が東西に走ってますけれども、この築地立願寺線を見ますと、境界から 30 メーター、黄色の範囲がずっと道路の伏線を並行して走っていますし、玉名駅から上っていく道路、旧中央病院の横の道路も、県道玉名停車場立願寺線がありますけれども、こちらも、赤やオレンジ 30 メーターの幅で別途用途が貼ってあるということもありまして、今後見直しを進めていこうかと思っています。都市計画道路玉名駅平嶋線の事業については以上でございます。

(議長): はい、ありがとうございます。もう 1 つ、道路整備について、個別のお話でしたけれどもご説明いただきま

した。何かこれにつきましてご質問ありますでしょうか。

(大廣委員):玉名町区長会長の玉名大廣ですけれども、玉名駅平嶋線のこの地域、春出1区の区域になっておりますので、特に、ここは以前から市役所の方からご説明を受けて、この日は議会も傍聴に行きました。この通り、もう私自身も本当早く道ができないかなという希望を持っております。まだ先になりますけれども、一応議会でも聞きましたが、その用途地域の見直しもあるということで、これは本当に期待しております。やはりまちづくりにどうしてもつなげていきたいと地元では思っておりますので、今は、春出の方はほとんど田んぼ、それから少し住居地がありますが、その辺は行政の方でやられますが、用途地域の見直しということをお聞きしましたので、その辺是非ともお願いしたい。やはり商業地域とか。

境川も抱えておりますが、境川も河川管理がちょっとJRの影響で止まっております。是非とも境川河川改修もいつかできるか知りませんが、平行して、この都市計画道路、地元としても最大限協力していきますので、よろしく願いいたします。要求ばかりで、すみません。どうもありがとうございます。

(議長):はい、ありがとうございます。今の件はよろしいですかね。

(事務局):ご意見ありがとうございます。道路整備も、用途の変更の見直しについても、これから令和8年度に詳細設計に入りますので、この詳細設計ができてから、用途の見直しとかについては検討に入っているかと思っています。以上でございます。

(議長):はい。ありがとうございます。その他何かご質問ありますでしょうか。

(坂口委員):ちょうどこの玉名駅平嶋線が出たので、これと今日前半にお話があった、このまちなか未来図と、これがリンクしている方がやっぱりいいと思うんですね。

こちらの資料1-2の中の14ページで、色々と全体的な道路の模式図がある中で今、玉名駅平嶋線は、どちらかというと外との連携の道路という位置付けだけになってるんですけども。今の資料3の1ページの資料を見ると多分、今回色々まちなかの検討をしている中で、どちらかというと、中の内環状道路みたいなのが、実は県道玉名停車場立願寺線と、県道寺田岱明線と都市計画道路の立願寺横町線が、まちなかの連携の中の内環状線な道路であって。その外側に玉名駅前の道路から、玉名駅平嶋線があって国道208号線があって、新玉名駅から今これから高瀬の方に新しく県道もバイパス整備して、それが少し外環状的なもので。そうすると今回のこのまちなかで検討するのは、横の連携というのが、2本の環状線で、回るような形になってますので、そういった位置付けをしておくとか非常に色々広がりがあかなと思います。

(議長):はい、ありがとうございました。そうですね道路という観点からそういった見方もできるかなというふうに思いますので、ぜひご検討いただければと思います。

議題につきましては以上とさせていただきたいと思います。本日もたくさんご意見ありがとうございます。続きまして4意見交換がございます。事務局からご説明いただけますでしょうか。

(事務局):事務局の中川でございます。ただいま、事務局よりすべて説明を行いました、本協議会の今後の活動、次回の協議会において議題とするものなど、何かありましたら、ご意見、ご要望などありましたらお願いしたいと思います。

(議長):はい。いかがでしょうか次回に向けて、もしくは、何か言い忘れたことを含めてあればと思うんですがいかがでしょうか。

ちょっと私から、1点、先ほど言い忘れたことで。魅力向上委員会でニュースレターを作られたってことなんですけど、今後作って、どうやって配布してるのかっていうことと、今後の発行の頻度ですが。そのあ

たりは、どんなご予定をご検討いただいているのか。あとはここに note って書いてますけどこの辺りも含めて、ちょっとご説明いただければと思うんですけど、いかがでしょう。

(事務局):ありがとうございます。お配りしておりますニュースですけども、こちら魅力向上委員会の本日傍聴席で来ていただいております濱崎さんがお作りいただいているものになっております。やはりこの委員会の活動とかまちづくりについて、もっともっと広報して広めなきゃいけないという思いで、作っていただいているものです。

note というのは、今年度、ランドデザインの策定業務を日本工営都市空間さんに業務委託の発注をしまして進めてるところです。その業務の一環として、インターネット上で活動の配信をするということで、note というツールを使って、今の取り組みについての広報を行っているという内容になっています。

(濱 崎):今日は傍聴させていただいております、魅力向上委員会のメンバーの1人で濱崎と申します。すみません傍聴の席から失礼させていただきます。ご質問がありましたこちらのニュースレターなんですけれども、一応玉名市のホームページや広報で、このデザイン協議会などの活動の報告はされていますが、やはりなかなかその情報が受け取りにくい方もいらっしゃるんじゃないかということ。また広報たまなど、ちょっと時差がありますので、より早い情報発信ができるようにニュースレターを作りました。

対象としましては、ホームページとかデジタルが苦手な、やはり高齢者の方に向けた発信に、一番重きを置いています。こちらを配布したのは高齢介護課のところで作ってる事業の、まちなかの高齢者の方たちのサークル活動のグループに配布をお願いしてあります。

実は教育委員会にも、各まちなかの小中学校に配布できないかというご相談もさせていただいたんですけども、ちょっとまだ内容的に学校向けな内容ではないかなというところで、今回は見合わせますということでした。今後、そういう子育て世代の方たち向けにも、内容を書き換えながら、より広い世代の方たちに、この活動を知っていただいて、まちづくりに興味を持っていただきたいなというところで考えています。頻度なんですけれども、2ヶ月か3ヶ月を1回に発行できたらと今考えています。

(議 長):どうもありがとうございました。これぜひ高校もいいんじゃないですか。高校にも配布可能なら、ぜひそのあたりもご検討いただければと思います。すみませんどうもありがとうございました。何か皆さん他にはいかがですか。

(村田委員):まちなか魅力向上委員会の村田と申します。先ほど産交バスさんのお話を聞いていて、つくづく思ったんですけども、魅力向上委員会に参加させていただいて、先ほどもお話しましたが、やっぱり官民連携していくというのが大事かと思っています。

例えば駅前を整備していただいてバスが運行しやすくなるというのは、ハード的な装備で「官」でしていただくとしても、これから運転手さんも多分少なくなっていく時代になってくるだろうと思うんです。そういうときに、じゃあ私たちに何ができるんだろうと言ったときに、僕、九看大の学生さんが雨の日とかに、学校から駅まで歩いて行っている姿を見ると、もう乗せていってあげたくなるんですね。「車に乗っていかんね」って言いたくなるんですけど。さすがにおじさんがそれ言うと、通報されるかなと思うので、今やってないんですけども。ただ、それぐらい乗っていけばいいのにと考えています。

多分そういう市民ってたくさんいて、そういう中で、今、民間タクシーやライドシェアあるじゃないですか。ああいうのを、産交バスさんと一緒に、市民と官と一緒に立ち上げて、お金はあんまりいらなくけど、俺乗せていったっていいよっていうことができたりとか。何か一緒に民と行政と、あと事業者さんと、そういうことが今後進めていけたらなと思って提案というか、聞いてみたかったのではっげんしました。今日

じゃなくてもいいので、今後何かそういう話があれば教えていただきたいと思ったので。よろしくお願いいたします。

(大草委員): はい。ありがとうございます。ライドシェアに関しましては、いろいろ私も交通事業者でありますので、興味を持って記事も読んでますけども、なかなかハードルが高いというか。やっぱりタクシー業者に所属した中でライドシェアみたいなことを何かこの前新聞で見ました。

我々も公共交通として、タクシー業者さんがあるし、バス会社さん、ある程度すみ分けをしないとイケないかなというところもありまして。本当の海外のライドシェアみたいな、自由なライドシェアじゃなくて、やっぱり日本式のライドシェアになると思います。そのあたりは国交省、運輸局、その辺りちょっと様子を見ながら、やっていかないとイケないと感じております。ただ、運転手が少なくなるっていうのは、実際私たちも肌で感じておまして。やっとな今年1月に2人入ってきたので、よかったなと思っておりますが、大事に育てなきゃいけないかなと思っております。

実際長い目で見るとどうかないうところもありますので、玉名市さんと協議しながら、どういう路線を作っていくのかとか、循環をどういうふうに動かすかというのは、今後、さらに協議を進め、また乗車人数も見ながら、やっていかないとイケないということで思っておりますので。将来的なことは、玉名市さんとか、業者さん、公共交通、それと官庁といろいろ相談しながらやっていこうと思います。

ただ、こういう需要があるんじゃないのか、こういう使い方もあるんじゃないのか、できるかできないかは別にして、いろんな意見はやっぱりいただいて、逆に言うなら玉名式でも構わないと思うんですけども。そういうのが可能かどうか、ちょっとわからないですけど、そういう少しでも一歩前に進めればということで思っておりますので、何かありましたら意見をちょうだいして検討するというのが基本かなと思いますので、よろしくお願いいたします。

(議長): はいどうもありがとうございます。

今たまたまライドシェアというお話だったんですけど、多分いろんな形で市民の方が、「こここうなったらいいのにな」とか「これこんなこと私できるんだけどな、でも、できないかも」みたいなことがいろいろあると思うんですね。そういうのが1つ1つなんか丁寧に実現していくような仕組みができれば、何かちょっとずつでもまちなかが良くなっていくという部分もあるかなと思いました。そういったことが未来図をきっかけに、いろんなところで生まれていく。それを行政がサポートするみたいなことを担っていくといいのかなと今ちょっとお話を聞きながら思いました。はい、ありがとうございます。

(石津委員): すいません助産師の石津ですけど、ちょっとパブリックコメントのところに戻るんですけど、5歳と2歳の母をやっています。市から来た子育てのアンケートも答えるのがすごい苦痛で。でも頑張って、ペーパーも書いたし、オンラインでも答えたんですけど。やっぱり行かないと意見はもらえないと思うので、できればお手数おかけしますが、子育て世代の支援センターとかまた出前に行ってもらって、意見聞いてもらいたいなってすごく思います。よろしくお願いいたします。

(議長): ありがとうございます。ぜひそこはご検討いただければと思います。その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。とにかく非常にいいものができてきたなと思いますし、私も見ながらすごくわくわくしたという側面もすごく率直に感じました。一方で本当、中野先生がおっしゃった通り、それから漏れてくると言ったら変ですけど、今の子育ての方とか、高齢者の方とか、フォローをしていきつつ、コンセプト、キャッチフレーズになりました「みんなで幸せ実感」というところですね。ああいうことが実現していくと本当いいなと思いました。

時間を超過してしまいましたけど、本日、たくさんのご意見いただきましてありがとうございました。
事務局は、ぜひご検討していただき、最終案に向けてご対応いただければと思います。非常に時間超過しておりまして、申し訳ございませんでした。それでは事務局にお返ししたいと思います。

(司 会):はい、議長におかれましては長時間にわたりまして議事の進行を行っていただき大変ありがとうございました。また中野副会長の他、委員の皆様方におかれましても、長時間にわたりご議論いただきまして誠にありがとうございました。

その他につきましては連絡事項について1点でございます。次回の開催日については、勝手ながら3月26日水曜日午後1時半からの開催と考えておりますので、日程が近づいて参りましたらまた後日ご連絡させていただきます。その他につきましては以上でございます。

これをもちまして第2回玉名市まちなか未来デザイン協議会を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。